

川を中心とした [会見町・金田地区] 地域活性化への取り組み。

「日常、何げなく生活を送っているふる里の中で、自然と歴史と文化とそして自分自身をもう一度だけ見つめなおしてみたい。皆んなで元気を出そう。」——西伯郡会見町金田地区で平成13年(2001年)に開催された第1回「小松城まつり」(主催/金田公民館)のテーマとしてこう記されています。

金田地区は、45世帯、人口180人の集落。かつてここには同地区を含む七つの集落を治める小松一族が「小松城」を築城し治めていました。ところが、延元元年(1336年)に、出雲の武将塩冶貞教によって攻め込まれ、一族は滅亡。その数年後、戦場で無念の討ち死にした武士たち

の霊が舞い戻ってきたため、村人たちは霊を弔うために盆踊りを始めた。そして、霊は小松谷の川面に乱舞する147匹の悲しい螢になったという言い伝えが残っています。

会見町

「小松城まつり」は、このストーリーと「ほたるの里づくり運動」とを組み合わせたイベントとして企画され、毎年6月初旬の夜は初夏の風物詩として多くの見物客でにぎわっています。しかし、目的は決して地域のにぎわいづくりにあるのではなく、「ほたるの住めるような自然環境をつくり守っていく。それが、人間にとって最適な生活環境である。」という思いがあります。

金田地区



お問合せ先
 会見町役場産業課
 TEL 0859-64-3783

小松城まつり

小松城山道の整備



「小松城まつり」

地区内外に「ホタルの里づくり」の理解を深めようと始まった「小松城まつり」。昔からこの地に伝わる物語とホタルを結びつけたこのイベントは、小さな集落からの環境保全に対するメッセージでもあります。

毎年、6月初旬に行われるこの祭りは今年で3回目を迎え、町内のみならず近隣の市町村からも多くの方が来られています。太鼓や小松谷盆踊り保存会による盆踊り、その他色々な催し物や祭り定番の夜店も並び、子供からお年寄りまで楽しめる祭りですが、クライマックスは何と言っても、地元で伝わる悲しい物語になぞらえた竹筒提灯行列でしょう。地元の方々

手作りの竹筒提灯を手にし、小松城跡より金田川への行列は提灯のほのかな灯りがホタルの乱舞を思わせ、物語の悲しさをも思わせませす。



小松谷盆踊り

ほたるの里づくり

「金田川 ほたるの里」

「我々の子供のころは、ホタルがようけおって菜種のカラで捕ったもんだが、もう一回ホタルを飛ばかしてみらいや。」二、三人の雑談の中から始まった「ホタルの里づくり運動」。

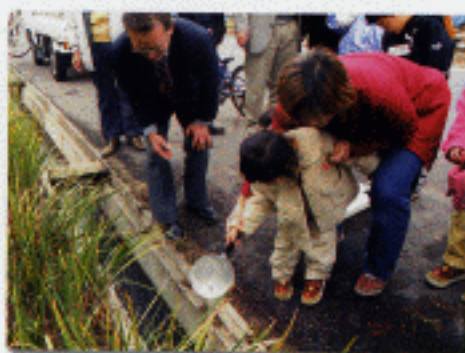
地区の皆さんによる、川やその周辺の清掃、種ホタルの収集、餌になるカワニナの放流、生活廃水の浄化など川に対する配慮を、ほぼ10年つづけ、近年、社会の環境に対する意識が変わってきたこともあり、やっと今日のようなホタルの群生が見られるようになりました。

環境の大切さを地区民が共通の理解をしようと、環境講演会を開きその中で得たものを実践する努力もしました。当初、金田川の金突橋という点だけだったホタルの群生は、上、下流へと広がり、今では、近隣を流れる宮谷川、金突川へと横の広がりを見せています。「ホタル橋」から「ホタル川」そして「ホタルの里」へと地区の皆さんの思いは着実に広がっています。

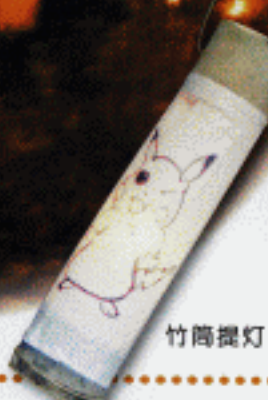
ホタルの見ごろは6月上旬～6月中旬、蒼白いほのかな光のリズムを、ただじっと見つめているだけで、心まで浄化されるような不思議な感覚にとらわれてしまいます。



整備された金田川上流



子供達による幼虫の放流



竹筒提灯

